

水田雑草図鑑

ここでは水田でよく見られる雑草について種類ごとの生育特性をまとめています。自分のほ場によく発生する雑草を確認し、対応する方法をとりましょう。



No.1 ヒエ [イネ科]



●特性

ヒエは種子から発生する一年生雑草で全国的に分布しています。湿性の雑草でジメジメした湿地を好み、水田でよく見られます。発芽温度は14°C程からで、高温になるほど生育は盛んになります。ヒエはイネよりも光合成能力が高く、放っておくとあっという間に生長してしまいます。

●防除

ヒエは低酸素状態において発芽・生長が抑制されるため、深水管理によりある程度発生を抑えることができます。

代かきはヒエの場合、1回目は深水で行うことで種子を土壌表面に移動し、2回目は田面ヒタヒタの水量で行うことで出た芽を練り込み種子量を減らすのが効果的です。

米ぬかなどの有機物散布は土壌表面の酸欠状態が作れるので、ヒエには効果があるとされています。

対策方法

対策方法と該当の雑草の相性を記載しています。
○：効果が期待できる △：効果の出る可能性あり ×：効果は期待できない

方法	秋耕 ⇒P.4 ①項	2回代かき ⇒P.4 ②項	アイガモロポ ⇒P.5 ③項、P7-8	有機物散布 ⇒P.5 ④項
効果	△	○	○	○

No.2 コナギ [ミズアオイ科]



●特性

コナギは種子から発生する一年生雑草です。水生の雑草で湛水下でも良好に発芽します。特に光を好み、地下1.5cm以内の明条件下で温度が19°Cを上回ると発芽が増えます。

生育は早く吸肥力が大きいためイネと競合し、収量への影響が大きく出る雑草です。1株で3000粒程の種子をつけ繁殖力も強いので、早期に防除を行うのが重要です。

●防除

光を好み明条件下で発芽することから、光の遮断が発生を抑えるポイントになります。

代かきは1回目は深水で行い種子を土壌表面に移動し、さらに2回目も深水で行うことで出た芽を攪拌すると共に、トロトロ層を覆いかぶせるのが効果的です。

また、米ぬかやくず豆の分解により発生する有機酸やサポニンという物質により発根が阻害されることがわかっており、抑草効果が期待できます。

対策方法

対策方法と該当の雑草の相性を記載しています。
○：効果が期待できる △：効果の出る可能性あり ×：効果は期待できない

方法	秋耕 ⇒P.4 ①項	2回代かき ⇒P.4 ②項	アイガモロポ ⇒P.5 ③項、P7-8	有機物散布 ⇒P.5 ④項
効果	△	○	○	○

No.3 ホタルイ [カヤツリグサ科]



●特性

ホタルイは種子と越冬芽の両方で繁殖をしますが、越冬芽は耕耘や代かきにより死滅するため水田ではおもに種子から個体が発生します。
水生の雑草で地下1~2cm程度、15°C以上の湛水条件下で発芽します。

ホタルイが繁茂するとカメムシ類の温床となります。また、発生密度が高いと収量への影響も出るため防除が必要です。

●防除

種子は水に浮きやすいので、深水代かきによって水に浮き上がってきた種子をすくい取ることで種子量を減らすことができます。

対策方法 対策方法と該当の雑草の相性を記載しています。

○：効果が期待できる △：効果の出る可能性あり ×：効果は期待できない

方法	秋耕 ⇒P.4 ①項	2回代かき ⇒P.4 ②項	アイガモロポ ⇒P.5 ③項、P.7-8	有機物散布 ⇒P.5 ④項
効果	△	○	○	×

No.4 オモダカ [オモダカ科]



●特性

オモダカは矢じり型の葉が特徴的な多年生雑草です。種子と塊茎で繁殖しますが水田では主に塊茎で繁殖します。
初秋ごろ株の基部から地下茎を伸ばしその先端に1cm程度の小型の塊茎を形成します。塊茎は地下5~15cm程の深度に存在し、栄養を蓄えた塊茎から発芽してくるので初期から生育が早いです。

●防除

塊茎の寿命は乾燥下で1年程度です。稲刈り後速やかにロータリー耕を行うことで塊茎の成熟を抑え、さらにプラウによる反転耕により冬期の低温乾燥にさらすことで枯死を促すのが個体数を減らすのに有効的です。

また、深水代かきによって水に浮き上がってきた塊茎をすくい取ることで塊茎の量を減らすことができます。

対策方法 対策方法と該当の雑草の相性を記載しています。

○：効果が期待できる △：効果の出る可能性あり ×：効果は期待できない

方法	秋耕 ⇒P.4 ①項	2回代かき ⇒P.4 ②項	アイガモロポ ⇒P.5 ③項、P.7-8	有機物散布 ⇒P.5 ④項
効果	○	○	△	×

No.5 クログワイ [カヤツリグサ科]



●特性

クログワイは塊茎で繁殖する多年生雑草です。塊茎は直径1cm程度の黒い球形で寿命は5年以上にもなります。地下30cm程からでも出芽ができ、また出芽期間は移植後30日以降にも及びます。地下茎は細断しても側芽を形成し、非常に生命力の強い雑草です。

●防除

初秋ごろに株元から地下茎を伸ばし、その先端に塊茎をつけます。塊茎は乾燥により枯死が促されるので、稲刈り後速やかにロータリー耕を行うことで塊茎の成熟を抑え、さらにプラウによる反転耕により冬期の低温乾燥にさらすことが個体数を減らすのに有効的です。

また、深水代かきによって水に浮き上がってきた塊茎をすくい取ることで塊茎の量を減らすことができます。

対策方法

対策方法と該当の雑草の相性を記載しています。

○：効果が期待できる △：効果の出る可能性あり ×：効果は期待できない

方法	秋耕 ⇒P.4 ①項	2回代かき ⇒P.4 ②項	アイガモロボ ⇒P.5 ③項、P.7-8	有機物散布 ⇒P.5 ④項
効果	○	○	△	×

おもな参考文献

- ・森田弘彦・浅井元朗編著「原色 雑草診断・防除事典」農文協,2014
- ・稲葉光國「無農薬 有機のイネづくり」農文協,2007
- ・根本文宏・平井一男・森田裕彦「防除ハンドブック 稲の病害虫と雑草」全国農村教育協会,2004
- ・伊藤一幸・嶺田拓也編「田んぼの草花指標 - あなたのまなざしを待っている世界 -」農と自然の研究所,2009

